

質問 ① 119 番通報から現場到着所要時間、および病院収容所要時間がどの位かかるのか各地域別に教えてください。

質問 ② 応急処置を速やかに行うために救急救命士 OB 医療系 OB 各地域の駐在所とのホットライン活用が出来ないか

救急車が到着するまでの時間は、全国平均約 10.3 分 医師引き継ぎまで 4 7.8 分となっています。大島町消防本部は、大島かめりあ空港にあり、各地域により、到着時間が違うと思います。

救急車が到着するまでの間に、応急手当を行うと急命率 後遺症が残る程度にも差が出るようです。

心筋梗塞の場合 心肺停止から応急処置を行えば 1 分以内 95% 3 分以内 75% 5 分以内 25% 8 分を経過すると救命する可能性は極めて低くなる。

応急処置としては ①倒れている人の耳元で声をかけながら肩をたたき、反応を見る

②気道を確保する

③人工呼吸を行う

④心臓マッサージを行う AED を使用する事も有効

脳梗塞の場合は ①患者を水平に寝かせ、毛布などで保温します。

②ネクタイやベルト、腕時計など体を締め付けているものを外す

③襟元やウエストを温めます。

④左右どちらかの半身に麻痺がある場合は、麻痺側を上にする

⑤嘔吐が激しい場合は、横を向かせる

⑥患者を歩かせない。

⑦頭をむやみやたらに動かすのは禁物です。

など様々なケースにより応急処置のしかたがあるとおもいます。

119 番通報をすると、隊員の方が丁寧に、症状を聞いて頂き、心落ち着いてきますがこの応急処置を行う事は、気が動転している家族や、高齢の方、一人暮らしの方では難しく、AED を設置してある場所まで取りに行くのも困難であると思います。

以上の事から、救急車が到着するまで、速やかに救急処置が行われるように、各地域に、救急救命士 OB ・医療経験者 OB ・AED が設置してある駐在所 と消防本部が ホットラインなどで、つながり いち早く現場で応急処置が出来ると、島民の方々も、安心されると思います。

答え 消防長

それでは西川議員のご質問、2点についてお答えさせていただきます。

はじめに、「119番通報から、現場到着所要時間および病院収容所要時間がどのくらいかかるのか、各地域別に教えてください」についてお答えいたします。

まず、参考として東京消防庁と大島消防本部のそれぞれの所要時間を申しますと

入電から現場到着 東京消防庁 14分、大島消防本部 13分

現場出発から病院到着まで 東京消防庁 13分、大島町消防本部 8分です。

ご質問の各地域別のそれぞれの所要時間についてです。

クダッチ地区は、統計上差木地に含み、地区名の次には、入電から現場到着、現場出発から医療センター到着の平均時間を分単位で報告させていただきます。

泉津地区 11.67分 13.52分 岡田地区 9.26分 9.30分

北の山地区 6.76分 6.02分 元町地区 9.21分 2.99分

野増地区 14.75分 6.58分 差木地地区 22.66分 16.57分

波浮港地区 26.89分 20.25分 となります。

次に、「応急処置を速やかに行うために救急救命士 OB、医療系 OB、各地域の駐在所とのホットライン活用ができないか」についてお答えします。

結論から申しますと、消防本部から一般の方への救命処置等の依頼は業務外となります。

まず、消防本部の業務として、119番通報があった際、詳細聴取、そして救急車等を現場、傷病者のもとへ向かわせます。南部地区等の現場到着までに、時間を要す場合には、聴取時に出場させております。

緊急を要す場合には、同時進行にて、電話を切らず応急処置・一次救命処置を実施してもらうよう口頭指導を行っております。

応急手当と一次救命処置についてですが、突然のケガや病気に、家庭や現場で、できる手当のことを応急手当と言います。

ケガや病気の中でも、最も重篤で緊急を要するもの、急性心筋梗塞や脳卒中また、プールで溺れたり、喉に物を詰まらせるなどにより、心臓と呼吸が突然止まってしまった場合に、対応する事を一次救命処置と言います。

傷病者の命を救い、かつ後遺症もなく社会復帰に導くためには、救命の連鎖が必要です。

まず、心停止の予防、次に早期認識と 119番通報、次に一次救命処置、その後医療機関による二次救命処置と集中治療となります。

西川議員のおっしゃる通り、心肺蘇生を行っての救命率は、短い時間経過とともに一気に下がって行きます。

もう一つ、AEDによる電気ショックを行ってからの、一か月後の社会復帰についてみてみますと、救急隊が実施した場合、18.6%、一般の方が救急車到着前に実施した場合、43.9%となっております。

このことから、居合わせた方（バイスタンダー）の一次救命処置の重要性が分かります。

大島町 HP には、AED（自動体外式除細動器）設置場所について、地図上で確認できるようになっております。

現在、ご協力いただき、43 箇所に設置が確認されております。

注意としては、貸し出しが24時間365日のものや、日中だけ等ございますので、ご確認をしていただけたらと思います。

ただ、AED は魔法の機械ではありません。あくまでも心臓が震えている状態でのみ効果を発揮します。

重要なのは、絶え間ない有効な心臓マッサージが最重要であると付け加えさせていただき、回答とさせていただきます。

答え 町長

ただいま消防長からの答弁に補足させていただきます。

西川議員のおっしゃる通り、消防本部は平成 16 年から、空港消防業務を実施するにあたり、大島かめりあ空港へ移転しました。

そのためやはり救急車の南部地区への到着に時間を要しています。

消防長からありました、救命率及び AED 電気ショック後の社会復帰率を見ましても、家族・住民など、居合わせた方、いわゆるバイスタンダーの心肺蘇生と早い AED の使用が重要であります。

島内に把握しているだけで、43 箇所に AED が設置されております。

いざという時のため、自分のお住いの近く、また島内の設置場所を確認するなどして皆で協力しお互いのいざという時に備える事が大切な事と感じています。